



6

ト
ク
ク

3-2500

0 107

明治四十三年十月七日接受

警務局

公信簿

一六號

明治四十三年九月十日

受第22600

第一課

第二課

〇〇〇

總領事代理平田知夫

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

陸信

印度陸軍騎兵學校設置の件

今般吉政府に於ては本政府の允許の下に

新に陸軍騎兵學校を設置することを決定し

右の如き官制を本月一日特別陸軍令で

発表せしめ之を就ては為御参考其概要

を記述致す

附

在カルカッタ日本帝國總領事館

四十二年十月十四日記録

本校は英本國及印度兩陸軍騎兵將校英本
 國陸軍騎兵下士及び印度陸軍土人騎兵將
 校並に下士に對し特別教育を授けんとす
 本校舎は中央州「サウガル」に設置し「サウガル」騎兵
 學校 (The Cavalry School, Dausar) と稱す
 本校は印度陸軍本部 (Army head quarter)
 に直屬し教育管理其他一切人事事務は同
 部各課に直接交渉ヲナスモノナリ 幹部は校
 長之下に教官助手ヲ置キ軍醫及獸医ヲ附
 屬せしむ又教練用トシテ調整軍馬六十五頭
 二年調整軍馬六十頭未調整軍馬六十頭合
 計百八十五頭ヲ備へり
 課程は將校級下士級に分ち將校學生ハ二年

以上、隊務ヲ経修格強健ニシテ馬術ニ優レ且ツ
 野外測圖園圃ニ熟練セルヲ要シ入學ヲ
 降自己ノ軍馬ニ頭宛(土人將校ニ頭)携存スル中
 二トス又下士學生ハ射格強健學力優俊ニシ
 テ將來聯隊ニ於テ適者ノ教官ヲ得ベキモノ
 ニ限リ入學ニ際自己ノ馬具ヲ携存スルモノトス
 學費校長ハ毎年入學セル中學生ノ員及其
 等級ホ各師團長及獨立旅團長(緬甸)ニ
 通知シ師團長及獨立旅團長ハ之ヲ入
 學候補者ヲ撰抜シ學校長ニ通知ス而シテ學
 校長ハ參謀議長ノ認可ヲ經テ其入學者ヲ
 決定スルモノトス

修學期滿將校級ニ滿ルモノハ九月九日(舊曆)至九月十五日(舊曆)在カルカッタ日本帝國總領事館

在カルカッタ日本帝國總領事館
 九月九日(舊曆)至九月十五日(舊曆)至九月十五日(舊曆)
 陸軍騎兵將校一名印陸軍騎兵將校一名
 騎兵將校二十名土人騎兵下士二十名及ヒ英本國陸
 軍砲兵將校二名ノ外印友軍總司令官ヲ特ニ撰抜
 セラズ將校六名ヲ合セ百十六名ニ限リ

右及仰報告候 敬具



出宛

文書局長

明治四十三年十月十二日接受

97

印務局長

明治四十三年十月十一日起草
同日發遣

主任

第三課

印

政務局長

印

送第 三一七

小村大臣

陸軍大臣

印度陸軍騎兵學校

証書二冊之二件

四十三三年十月十二日記録

外務省

四十三年十月十四日記録一部受

今般印度、旅テ新ニ証書セラルルテ陸
 軍騎兵學校ノ官制別ニ界ニ在ルカクテ
 証書ヲ以テテ別成子、身ヲ報告之
 左ニ付為テ長ク在テ左ノ証書ニ付
 以テ且右ノ証書以テテ也
 (東京ニ二二六〇〇号ニ付テ)